

第1回余野川ダムサブWG会議（2004.8.11開催）結果報告		2004.8.31 庶務発信
開催日時：	2004年8月7日（土）15：20～16：56	
場 所：	梅田センタービル 18階 E会議室	
参加者数：	サブWGメンバー委員6名、サブWGメンバー外委員7名、河川管理者26名 一般傍聴者（マスコミ含む）29名	
<p>1 審議の概要</p> <p>WGに先立って開催された現地視察や調査検討の中間報告について意見交換が行われた。主な意見は以下のとおり（例示）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本日の現地視察は、余野川ダムの代替案である水田貯留や遊水地等を視察したが、ハードの説明が目立った。洪水被害の軽減を目的とするあまり、ハードによる代替案に偏ったのではないか。人命被害をゼロにすることを目的として、ソフト対策を考えれば、より良い治水対策になるだろう。 ソフト対策を実施していくために、猪名川総合治水協議会で、防災関係者とともに災害時の連絡システムの作成等に取り組みはじめてところだ（河川管理者）。 ・一庫ダムを2mかさ上げすると、周囲の県道が水に沈むためにかさ上げしなければならないとの説明を受けていたが、県道が水に沈むわけではないことが、本日の説明でわかった。誤解を招きかねないので、きちんと説明するべきだ。 ・余野川の維持流量についての明確な回答が得られなかったのが残念だ。 ・「一庫ダム利水容量の振り替え案」として、余野川ダムへの振り替えが検討されているが、他の手段でこの振り替えが可能になれば、余野川ダムの銀橋上流への治水効果はなくなるのではないか。 多田地区の浸水被害については、他の治水対策を実施しても十分には解消されないので、銀橋・狹窄部の開削も含めて、あらゆる方法を検討している（河川管理者）。 ・流域委員会の提言では、狹窄部については下流への影響を配慮して「開削しない」としているが、下流への影響がクリアできるのであれば、開削を検討してもらうのは結構なことだと思っている。 ・余野川ダムに猪名川本川の治水効果があるのか、いまだに疑問だ。余野川ダムは、猪名川でなく、支流に建設されるため、猪名川本川への治水効果は間接的なものではないか。 余野川ダムの治水効果については、これまでに説明したとおりだ。「間接的」が、余野川ダムでは猪名川本川の洪水調節ができないという意味であれば、その通りだ（河川管理者）。 ・ダムができることで、地元住民の中に洪水への安心感が生まれてしまう。ダムの目的や効果をきちんと説明する必要がある。 余野川ダムの効果については説明してきたが、もう一度ダムWGで示したい（河川管理者）。 ・猪名川水系の管理は、国交省、兵庫県、大阪府にまたがっており、水系全体の治水対策がわかりにくい。貯水施設の役割分担もよくわからない。一庫ダムと余野川ダムの影響や効果をきちんと説明していかなければならない。 ・水田貯留の活用について説明を受けたが、水田の生態系への配慮も忘れてはならない。生態系に配慮したために、予定していた貯水容量が減るという事態まで予測して検討しているのか。 そこまではやっていない。目一杯貯水するという前提で検討を進めている（河川管理者）。 ・水田のかさ上げの説明では、農業関係者（行政、農家、地権者）の意見や考え方に触れられていなかった。説明が必要ではないか。 ・銀橋上流の河川管理は、兵庫県の管轄だったと思うが、県との調整はどうなっているのか。 		

現在はあくまでも「案」の説明である。効果が期待できると判断できれば、あらためて府県と調整したいと考えている（河川管理者）。

- ・水田貯留や溜め池活用は、流量や河川水位にどの程度の影響を及ぼすのか。今後の説明では、ハイウォーターレベルの比較等によって、貯留施設の効果を示してほしい。

調整池や水田のかさ上げ分を銀橋上流の流量に換算して、水位の検討をしてみたいと思っている（河川管理者）。

- ・新たな遊水地については、用地確保や地元住民への説得等の問題があり、実現性が低いのではないかと。無駄な検討にならないよう、実現できない案はあきらめるべきだ。
- ・水田貯留については、農水省と連携して国土計画の中に位置づけ、地元住民や地権者への資金バックアップ等の協力体制を築く必要がある。
- ・遊水地や水田貯留、ダムのかさ上げによって、社会生活にいろいろな影響が出るが、それらを住民がどこまで我慢すべきなのかについても検討を進めるべきだ。節水と同じように、住民が我慢しようという発想も必要だ。
- ・河川管理者だけではできないこともたくさんある。困っていることがあれば、河川管理者は遠慮なく、地元の住民に訴えていけばよいと思う。
- ・一庫ダムの利水容量が、余野川ダムではなく、大阪府営水道に振り替えられれば、余野川ダムの治水効果はなくなるのか。

銀橋上流の浸水被害軽減に関しては、余野川ダムの効果はなくなる。銀橋下流地域への効果については今後も引き続き検討していきたい（河川管理者）。

- ・水田のかさ上げよりも、河道掘削の方がコストは低いのではないかと。河道掘削のコストや効果について、わかりやすい説明をお願いしたい。

水田のかさ上げは非常に難しいと考えている。河道掘削以外の代替案についても、事業比較による効果の説明をしていきたい（河川管理者）。

- ・現在までにかかった余野川ダムのコストについて教えてほしい。
- ・水田貯留のためには、あぜ道のコンクリート化やポンプ設置が必要になり、水田の生態系が損なわれる可能性が高い。水田は現在のままで、浸水した場合には金銭的な補償で対応する方が好ましい。

2 そのほか

庶務より資料 1-6 を用いて、今後のスケジュールについて説明が行われた。

3 一般傍聴者からの意見

一般傍聴者 1 名より発言があった。主な意見は以下の通り（例示）。

- ・委員会には、余野川ダムの治水上の必要性について、検討を進めてほしい。先ほど河川管理者から、府営水道への利水振り替えが実現すれば、余野川ダムの治水効果は銀橋下流のみになるとの説明があったが、それなら、ダム建設よりも河道掘削の方がコストは安いのではないかと。

以上

このお知らせは委員の皆様にも主な決定事項などの会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させていただくものです。